被災民俗資料の保全活動の取り組み

飯島　康夫

1. はじめに

2011年3月の東北地方太平洋沖地震と長野県北部地震は，多くの人びとの生活を破壊し，地域で保存されてきた文化財,歴史資料や民俗資料にも大きな被害を与えた．それらの資料は生活が再建された後,あるいはその過程において，地域復興資源のひとつとしても活用できる可能性を持つものである．本稿では，被災した民俗資料の保全活動の取り組みを通して明らかになった課題について報告したい．

2. 東日本大震災後の宮城県における被災民俗資料の保全活動の支援

2.1　石巻市旧牡鹿町文化財収蔵庫

2011年6月28日から30日まで，宮城県教育委員会からの要請を受けて石巻市鮎川の旧牡鹿町文化財収蔵庫において地震・津波の被害を受けた民俗資料500件の保全活動に加わった[1)]．新潟からは，新潟大学教員2名，新潟県立歴史博物館学芸員1名（以上は28日・29日のみ），新潟市歴史博物館学芸員2名が参加した．作業は国立民族学博物館チームの指揮のもと，国立文化財機構，東北学院大学，新潟の各機関の参加者が行った．はじめに津波を受けて傾いたプレハブの収蔵庫から民俗資料を搬出し，いったん近接する公共施設に仮置きして，ラベル附け・写真撮影・照合のための資料の記録が行われた．資料の一部は洗浄のため同市内のサンファン館に車で搬送された．サンファン館には女川から救出された民俗資料も一時的に保管されており，2日目以降は，その一部資料の洗浄作業などにも携わった．後日すべての資料が東北学院大学に移送され，整理作業が行われている．

2.2　気仙沼市唐桑漁村センター

2012年1月18日から1月20日まで，宮城県教育委員会からの要請により宮城県気仙沼市唐桑の唐桑漁村センターの2階に展示されていた民俗資料約300点と生物資料約100点を搬出する活動を行った．唐桑漁村センターは鉄筋コンクリート2階建てで，津波の被害は受けておらず，民俗資料の損壊は比較的軽微であった．しかし，生物資料は液浸標本が多く，転倒してガラス容器が割れ，溶液が流出しているものも多数あった．作業には，東北歴史博物館学芸員2名，仙台市科学館の学芸員1名，宮城県教育委員会職員1名を中心に新潟から参加した新潟大学教員3名，新潟市歴史博物館学芸員2名，日本博物館協会の呼びかけで参加した学芸員3名（大阪市立自然史博物館，群馬県立自然史博物館，北九州市立自然史・歴史博物館），気仙沼市教育委員会職員があたった．民俗資料については，番号が書かれた附票を資料に付し，梱包の必要のあるものは簡易梱包し，必要のない大型資料はそのままトラックに積み込み，収納場所の旧気仙沼市立月立中学校に移送した．民俗資料の梱包は19日の午前中には終了した．生物資料は，翌20日まで作業が続けられ，容器が割れているものは容器の交換と溶液の充填を行い，破損していないものは養生して箱に詰めて搬出された．

3. 旧山古志村民俗資料館収蔵の被災民俗資料の整理

2004年10月23日に発生した新潟県中越地震で被災した山古志村民俗資料館所蔵の民俗資料は，翌2005年5月21日・22日に搬出され，2011年現在，長岡市の旧虫亀小学校と新潟市の新潟県文化財収蔵館の2か所に収納されている．これらの民俗資料を博物館資料として活用できる状態にするために，毎年，長岡市山古志支所職員，長岡市立科学博物館学芸員の立会いのもと，新潟大学の教員2名の指導で夏期休業中に新潟大学の学生による整理活動を行っている．作業は，まず資料をクリーニングして，1点1点について資料カードを作成するというもので，カード作成の終わった資料は収蔵棚に配架される．カードには，法量の入ったスケッチ画とともに名称や製作・使用方法などが記入される．不明な点は地元の古老に教えていただいている．資料写真も学生が撮影し，後日カードに添付される．2011年度は新たに127件の民俗資料の資料カードが作成された．これによって総計1,307件の資料が整理されたことになる．そのうちの一部資料は図録でも紹介した．[2] しかし，まだ相当数の未整理資料が残されており，今後の作業に委ねられている．

4. まとめ

被災資料の被災建造物からの救出と保全措置の必要性はいうまでもないが，特に津波被害を受けた資料は，脱塩，カビの発生防止や除去，防錆などの措置が急がれる．民俗資料は異なる材質の部位からなるものが多く，一律の処理ができないため，専門的な知識が必要とされる．また，救出・処理が終わったとしても，資料として活用するためには，資料に関する情報の記録が不可欠である．博物館の資料であっても資料台帳や資料カードなどが失われれば，改めて情報の収集・調査が求められる．これにはかなりの時間と，専門的な研究者の取り組みや指導，情報を提供してくれる地域の人々の協力が必要であり，ある意味では救出以上の困難さを伴う．長期にわたる幅広い支援体制が必要とされる．

参考文献

1）飯島康夫「新潟における宮城県被災民俗資料保存活動への支援の取り組み」『災害・復興と資料』1号，25－30，2012

2）原直史・池田哲夫・長岡市立中央図書館編『山古志の文書と民具』新潟大学災害・復興科学研究所危機管理・災害復興分野，2012

（編集：本稿は年報第1号（2012）として投稿されましたが，編集ミスにより第1号に掲載できませんでした．著者ならびに関係各位におわびいたします．）